

# ささやま図書館友の会



会報 第43号 2019年10月発行



発行：ささやま図書館友の会

## 宮沢賢治を読んできたかい 友田清司

おいしいものを先に食べるか、後から食べるか、それはどちらでもいいですが、この世に生まれてきて、篠山に縁があって、本を読むことができる人たちに、特にお勧めしたいのが宮沢賢治の童話です。

篠山は、賢治の郷里の花巻とどこか似た雰囲気があります。この篠山で、賢治童話を声に出して読み、わかりにくいところを教え合いながら読むのは、とてもおもしろいことです。

賢治童話のおいしさを伝えるためならば、どこにでも飛んで行きま〜すという心意気で、神戸から篠山へ《宮沢賢治の作品を読む会》に、数えて50回、寄せていただいたのですね。季節感たっぷりの道中も含め、さながら「宮沢賢治ワールドへの小旅行」という感じでした。

『注文の多い料理店』や『銀河鉄道の夜』の中の登場人物ではありませんが、私にとっては、夢のようにおいしい思い出の9年間となりました。

賢治童話を声に出して読む点で、少しだけ経験があったということから、『読む会』では進行役をさせていただきました。けれども、

私は出来の悪いお皿のようなもので、参加者のみなさんがそれぞれの立場、経験、感性から、すばらしい料理をつくって下さったような感じがしています。私自身が教えられることもたくさんありました。そして、何よりも素材がほんとうにおいしいわけで、今さらながら宮沢賢治に感謝したいです。

また、亡き妻が高校時代を過ごした篠山への往復は、私にとって「小さなセンチメンタル・ジャーニー」でもありました。この9年の間に、私は、悲しみ苦しみ、藻掻き続けた末に、偶然ともいえる経験を、まるで煩惱から解脱できた心境になりました。

ただ、身体のほうがだんだんと老いてきているということに自覚せざるを得ない状態になってきました。最近のニュースでは、やたら高齢者ドライバーの事故が目立ちますよね。

「転ばぬ先の杖」ではありませんが「事故せぬ先の運転自重」にしたいと思っています。

『読む会』としては、これからも宮沢賢治童話全集のまだ読んでいない作品を中心に読み進めていく予定だそうで、神戸から六甲山を越えて声援を送らせていただきます。

最後になりましたが、『読む会』のみなさん、ほんとうにお世話になりました。おいしい経験をさせていただけますと、ありがとうございます。



毎回友田さんのギター演奏で発声練習を兼ねて季節の歌を歌いました。



細見和之氏 講演会

## 「ジョン・レノンの魅力に迫る」

今回の講座はジョン・レノンがソロになってからを中心に話し頂き、オノ・ヨーコとの関係、歌詞にこめられた思いなどをひも解いていただいた。

### イマジン

レノンの中でも、20世紀を代表する曲とされるイマジンは、私の中では平和を希求する歌として位置づけられていた。

細見さんのお話では、イマジンはブルードンという思想家の『貧困の哲学』（1846年）に表されている主張と同じアナキズム的な思想を歌っているということだった。確かに宗教、国家、所有がなくなったら平和になれると歌っているが、アナキズム的な視点は今まで考えてみなかった。単にシンブルに平和を強く求めているところの、強調と捉えていたので、新鮮な視点だった。細見さんは19世紀半ばの思想家とジョン・レノンの曲の一致の不思議な重なりと言われた。振り返って見れば、革命が起こったブルードンの時代、ベトナム戦争が起こったレノ

ンの時代、そして現代の紛争の絶えない世界の状況、人間は本当に平和に向かって歩いているのか。常にイマジンはそう訴え続け、私達の胸に響いてくる。

### ジョン・レノンとオノ・ヨーコ

この二人はアーティストと、社会活動家の両面を持っている。オノの『グレイプフルーツ』という本には、イマジンという言葉が繰り返されて出てくるという。また、レノンが彼女の1966年の個展で「天井の絵／（イエス）・ペインティング」を見て、オノに惹かれていった話はあまりに有名だ。その後もアムステルダムでのベッドイン、また「War is over if you want it」のアクションや歌など世界に影響をもたらしていた。レノンだけではできなくオノあつての行動であり、多大な影響を



レノンは受けていただろうと細見さんは言う。またビートルズのファンからは二人の結婚が解散の原因をつくったといわれているが、レノンの魂とオノの魂が強く引き合ったのだと思う。あんなに自然で自由でかっこいいカップルはそういるものじゃない。

### 最後に

レノンのように、欧米では政治的なことや社会的なメッセージを歌に盛り込んでも、販売禁止になることはないし、ファンもそれを支持したりする風土がある。一方日本は自粛したりして、人々に広がりを見せない。最近も芸能人が政治的な発言をして、バッシングされたりしていた。まだまだ政治について自由に物を言う風土が醸成されていないのを感じる。私たち自身が日頃から政治の事や社会のことを周囲の人と話し合っていくことからその一歩は始まるのではないか。

### 講演会に参加して

▼細見和之さんの講座はいつも楽しみにしています。今回も平和に対する考えをレノンの詩から説明して

いただき興味深く聞きました。最後の先生の歌とお話もよかったです。

▼あまり知らなかったジョン・レノンとオノ・ヨーコの関係を知ることができ、その他の作品にもとても興味がわきました。Happy Xmas が反戦歌であることも初めて知りました。忌野清志郎の歌詞についてもお聞きしたいです。

▼細見さんのお話は初めてでしたが、興味深い切り口でよかったです。ギターを持参しての弾き語りは予想していませんでした。詩を作る上に作曲までされて、演奏もとてもよかったです。私には出来そうもありませんが、詩を作ってみたい気がします。

▼深い話の中に平和への思いが深いんだなと感じました。今だんだんと物の言いにくい世の中にならず知らずのうちに入っているのでは？心は研ぎ澄ましていかねばと思います。若い人に気づいてほしいなあと思います。



●●● 友の会行事のお知らせ ●●●

講演会 「光秀の丹波攻めと波多野氏 ～明智光秀と波多野秀治～」

講師：田中豊茂 氏

日時：2019年10月26日(土)  
13時30分～15時(受付開始13時)

会場：丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール

参加費：500円(運営協力費)

〈主な内容〉

- ・光秀に関する本の紹介
- ・波多野氏という武家(そのルーツと戦国大名への道をたどる)
- ・明智光秀という武将(定かならぬルーツを読み解く)
- ・光秀の丹波攻め(黒井城攻めの挫折・八上城、波多野秀治との戦い)
- ・本能寺の変とは何? 等のお話をさせていただきます。

★講師プロフィール  
昭和28年(1953年)宍粟市生まれ、丹波篠山市在住。日本家紋研究会理事・日本家系図学会会員・山名氏城跡保存会会員・北播磨城郭研究会会員。HP「家紋World」にて家紋と名字のおもしろさを発信中

大人の本を読む会

日時:10月17日(木) 10時～12時

会場:市立中央図書館 創作活動室

明智光秀、波多野秀治の関連本を読んで交流しましょう。

NHK大河ドラマ「麒麟がくる」では丹波がどのように描かれるのだろうか?放映が楽しみです。

宮沢賢治の作品を読む会

日時:11月5日(火) 10時～12時

(隔月で第1火曜日に開催)

会場:丹波篠山市民センター 研修室

参加費:300円

〈取り上げる作品〉

「さるのこしかけ」「化物丁場」「インドラの網」

\*声に出して読んで楽しめます

テキストは、各自お手持ちの本、または図書館の本でも良いです。コピーも用意しています。どなたでもお気軽にご参加ください。

\* \* \* \* \*

今回は「ガドルフの百合」と「台川」を読んだ。賢治は生涯独身だったが、見合いや片思い、結婚話もいろいろとあったようだ。「ガドルフの百合」は、賢治が18歳のときに入院した病院の看護婦に恋をし、内心の苦しくも切ない思いが伝わってくる作品。「台川」は、花巻農学校勤務時代に生徒を引率

して台川をさかのぼりながら、地層や岩石を丁寧に説明していく。石っこ賢さんとあだなされた賢治が、生徒と生き生きと交流している様子が伝わる。



本の修理ボランティアに参加しませんか

ボランティアで破損図書の簡単な修理をしています。傷んだ本がきれいになってまた利用者のもとに届きます。ボランティアをしながら本の修理が学べるのも魅力です。初めての方には説明いたします。道具等は用意していますので、どうぞお気軽にご参加ください。

毎月 第1・第3金曜日 10時～12時  
中央図書館創作活動室(参加希望者は直接会場にお越しください)\*5月より日程が変更になりました。日程は図書館に掲示しています。

# こどもの 本棚



## 『かがくのついで』

(福音館書店)

「はははのはなし」「ちのはなし」「みんなうち」などの月刊科学絵本「かがくのとこ」が、今年で創刊五〇周年になります。それを記念して、『かがくのとこのもと』が出版されました。

「かがくのとこ」は子どもたちに科学の本当のおもしろさや楽しさを伝えようと大切に作られた絵本です。幼児向となっていますが、小学生や大人にも、とても興味深い内容です。私は、学校のおはなし会でよく読んでいます。

この記念誌は、増刊号を含めた全六〇一作品の表紙やあらすじ・その五〇年の工夫の数々・加古里子さん、谷川俊太郎さん、他作者の科学絵本論など色々なテーマまでまとめられています。オールカラーでデザインもすてき。(〇一九・五三カ)

木戸雅子

グリム童話より

## 『月はうしついできたか』

ジエームス・リーブズ文

エドワード・アーディソーニ絵

矢川澄子訳

(評論社)

月はとうしてできたのでしょうか。むかしは月なんてなかったのです。夜は、ごともかも、まっくらでした。

あるとき四人兄弟があるまちへ出かけたときのこと。ふしぎなことにそこは夜になっても暗くなりません。カシの木にあかりがぶらさげられています。たずねると、「あは月ですよ、市長さんが2ポンドで買ってきて、ぶらさげたんです」とのこと。そこで四人は相談してこっそり月を持って帰ることにしました。

陰影のある絵が不思議な世界に引き込みます。(EPA)

福山和子

## 『蛙となれよ冷し瓜』

一茶の人生と俳句

マシュー・ゴラブ文

カズコ・G・ストーン絵

脇 明子訳

(岩波書店)

この本はアメリカで出版された『Cool Melons - Turn to Frogs!』という絵本を翻訳したものです。

アメリカの小学校では、文を書く練習の手始めに、「ハイク」を作る勉強をすることが多いとのこと。「スシ」とおなじくらい有名な言葉で、子どものためのハイク絵本もたくさん出ているそうです。

ただ、アメリカの自然はずいぶん日本とは違うため、日本からアメリカに渡った絵本作家のストーンさんは、俳句に詠まれた美しい日本の風景を理解してもらいたいと、日本文化を学んだゴラブさんと構想を練り、絵本を制作しました。

親しみやすい33の俳句をゴラブさんが英訳し、それぞれの俳句に美しい絵と解説を添えて、一茶の生涯をたどっています。

日本の原風景に出会い、俳句に込めた一茶の想いを知ることができる絵本です。(ローリー)

福山和子

## 『あと少し、もう少し』

瀬尾 まい(著) (新潮文庫)

『そしてバトンはわたされた』で本屋大賞をとった著者の前作。

陸上部の名物顧問が異動となり、代わりにやってきたのは頼りない美術教師。部長の榊井は、中学最後の駅伝大会に向けてメンバーを募り練習を始めるが…。

篠山かと思えるような田舎の中学の陸上部が舞台。寄せ集め男子生徒6人は県大会出場を目指して、襷をつなぐ。あと少し、もう少し、みんなと走りたい！

たかが中学生と思うことなかれ。中学生は中学生なりに誰かを想い、悩み必死で生きてるんだ！  
かって自分も中学生だった。まっすぐで、ひたむきで、今よりもっと生きることに正直だった。

それを思い出させてくれる本です。そしてそれは、すっかり大人になった今の自分に明日を生きる勇気をくれました。

昔の中学生も今の中学生も必読です!! (YAコーナー Fセオ)

星宗ゆり



図書館の児童書「特集コーナー」は季節にちなんだ絵本や物語、科学の本を集めています。毎月テーマが変わります。壁面に注目!

## おとなの本棚



### 『九十八歳になった私』

橋本 治 著（講談社）

作者は1948年生まれ。私も同い年。ベビーブームと呼ばれ、団塊の世代と言われた。

これは2年前に書かれた本である。その時とびついで読んで、面白くてずっこけた。

主人公のジーさんは、著者（当時68歳）の30年後という設定。第一東京大震災が起こり、命からがら助かったジーさんは、いま関東地方の仮設住宅に入っている。

昔は小説家だったので、毎日その日その時の思いを書き綴ったりしている。でも、頭も体もどこもガタガタのヨボヨボで、日常生活、といっても寝ているのか起きているのか自分でも分からないほどだから、書くこともヨロヨロのヨレヨレ。そんな中、時々介護のバーさんが見回りに来てくれたり、若い編集者というのが登場したりする。そのやり取りの

頓馬な事。これが手書きの字なんですか、とびつくりされたりする。

最後、そんなジーさんの許に通の郵便。「みんなで元気に百歳を迎えよう会」から。みんなで元気に百歳を迎えよう、イエーイー、やだよ、又団塊の世代だ、百歳のジジーがTシャツにGパンでギター弾くの？百歳のババーが白髪でタンバリン叩くの？

こんな事を書いておきながら、今年1月、橋本は70歳でさっさと夏土へ行ってしまった。重い本も軽い本もいっぱい読ませてもらった、同じ時代を生きてきたなあ、と思う。「昭和」という時代を。（Fハシ）

岩瀬秀子

### 『ツバキ文具店の鎌倉案内』

小川 糸 著（幻冬舎文庫）

本書は、小川糸著『ツバキ文具店』の店主・鳩子の美味しい出会いと素敵な思い出が詰まったエッセイ。

『ツバキ文具店』を読んで、ツバキ文具店の住所をアドレス帳に書き込んだ位、鎌倉に行ってみたい！と凄く思っていたら、こんな本が出ていました。

目次を見ただけで小説の登場人物がいきいきと甦ってきます。先日小説を読んでから鎌倉に行った娘のお土産はレンバイ（鎌倉市農協連即売所）の館パンでした。

私が行くときは、是非とも「つるや」の鰻を食べて、鳩子が先代におぶってもらって行った思い出の寿福寺に行き、七福神巡りもしてみたい…等等。あゝっ、想いは募ります。

（B910ツ）  
星宗ゆり

### 『ひねくれ一茶』

田辺 聖子 著（講談社文庫）

江戸時代、俳諧は爆発的に大流行する。数えきれないほどの「俳人」が生まれ、数えきれないほどの「名句」が生まれた。だが、それから二百年、三百年、今誰もが知っているという句はどれだけあるだろう。

すずめの子そのけそのけ

お馬がとおる

やれ打つな蠅が手をする足をする

我ときて遊べや親のないすずめ

やせ蛙負けるな一茶ここにあり

これら全部、一茶。口語である。上

手そうに書こうとか、風流そうに書こうとか、そんな銜は一切無い。当時も人気の流派に人が集まり、上達には金や何やが絡み、というのはいつの時代でも同じだ。そんな中、一茶はひとり自分の句を追い求める。地位や名声を下に見るとか、悟りを開いた、とかいうのでもない。ただただ俳句が面白くてたまらないのだ。貧乏長屋の万年床で、旅の空で、句帳を開いては書きつける、また開いては書きつける。

聖子の筆も一緒になって弾んでいる。俳句とは、文学とは、何とすばらしいものであることよ、それを好くのに誰に遠慮がいるもんか。紫が、清少が、久女が、古屋信子が、女のくせに生意気だとか少女趣味だとか、さんざん貶められた女達が聖子の筆によってきらきらと甦ったように、男だけど一茶も。継子育ちでひがんでいるとか、田舎者で無粋だとか、年寄って若い嫁買って色気違いだとか。さはあれどあれ、一茶の句は残り続けた。これからも残り続けていくことだろう。

うまそうな雪が

ふうわりふうわりと

（BFタナ）

岩瀬秀子

《図書館や他団体のお知らせを載せています》

**親子ふれあいタイム**

**第1・第3木曜日：11時～11時30分**  
**市民センター図書コーナーおはなしのへや**

**わらべうた・手遊び・絵本を楽しみます**  
 (ボランティア有志)

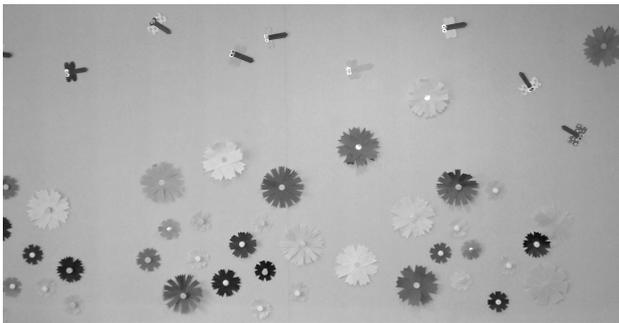
**ブログ刷新しました！**

ささやま図書館友の会のブログを刷新し、図書館関連の情報を随時お届けできるようになりました。ぜひご覧ください。

☞ <http://st-friends.seesaa.net/>

**市民センター図書コーナーの壁面飾り**

ボランティア有志が製作し季節ごとに壁面を折り紙で飾ります。図書館へこられた方は是非ご覧ください。



コスモスとトンボ

8月21日：丹波篠山市図書館協議会が開催され、ささやま図書館友の会代表中西文枝が委員に委嘱されました。

★友の会の活動は随時ブログにアップしています。

**図書館拾い読み**

◆ドキュメンタリー映画『ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス』が話題になっている。世界中の図書館員が憧れる世界最大級の〈知の殿堂〉。一般の人は立ち入れないアメリカの公共図書館の舞台裏をみせる。その舞台裏では〈図書館の資料や活動に誇りと愛情をもって働く司書やボランティアたちの姿。舞台裏のハイライトとも言える何度も繰り返される幹部たちの会議—公民協働のこの図書館がいかに予算を確保するのか。いかにしてデジタル革命に適応していくのか。ベストセラーをとるか、残すべき本をとるのか。紙の本か電子本か。ホームレスの問題にいかに向きあうのか。その丁々発止の意見のやりとりは、目が離せない。—HP 作品紹介より〉

3時間25分の長編だが、見た人からは「図書館がすごい！長さを感じなかった」と聞いた。

◆活字文化議員連盟・公共図書館プロジェクトが、～公共図書館—「新しい公共」の実現をめざす～パンフレット発行。公共図書館の現状と改革の課題で、図書館員の劣悪な労働条件について触れ、2020年度から実施される「会計年度任用職員」制度について自治体の自主性を損ない、さらなる雇用条件の悪化を招くのではないかという懸念が図書館界から表明され、危機感を募らせている、と書かれている。

談話室

◆バスを利用する機会が減ったにないが、新図書館が開館して間もないころJR線に乗るため篠山口行きバスに乗ると、赤い図書館バッグ(友の会オリジナル)を持った人を見かけた。図書館へ行くんだなど、とても嬉しくなった。図書館回りの新ルートができたのだ。別の日に帰りのバスに乗った時にも図書館バッグを持った人に出会った。今度は知り合いだった。「図書館に行ってきたのよ。」と。でも「もう少しだけ便を増やしてほしい。特に土日に開催される図書館の催しに参加しづらいので残念に思うときがある。」とのこと。図書館回りがなく時間帯は最寄のバス停まで歩くこともあるが、遠くて足が悪いので大変と話す。バスに乗って図書館に行かれる方は多くはないと思うが、みなさんはどうしていますか？免許返納後の図書館通いをどうするか、真剣に考えねばと思う。

◆これまでは友の会ブログでの情報発信が十分にできていませんでしたが、更新に力を貸してください。協力が現れ、ブログがだいぶ賑やかになりました。ぜひ開いてみてください。ご意見も聞かせてください。この方は別のブログで「ささやま図書館応援サイト」を開かれています。図書館利用をさらに深めた方はこちらもご覧ください。

